



治療シリーズ① t-PA治療の流れ

T-PA治療は、発症からの時間が4.5時間と限られているため、スピードが非常に重要です。馬場記念病院では、救急搬送から診断、治療、経過観察までを一貫して迅速に行う体制を整えています。

私がお伝えします

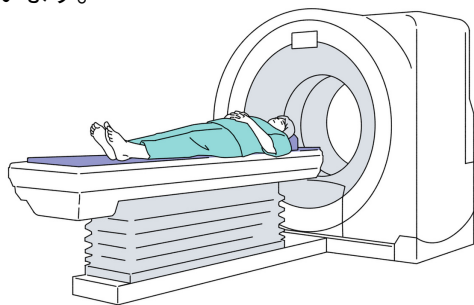


社会医療法人ペガサス 馬場記念病院
脳神経外科・副院長

魏 秀復

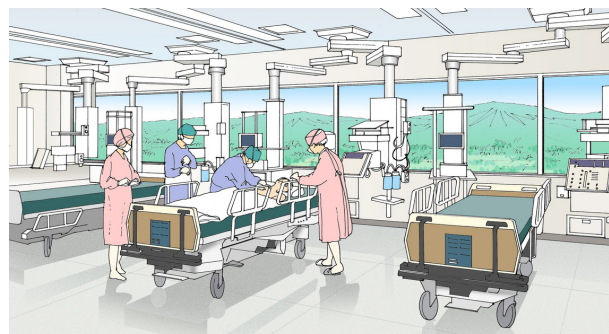
救急搬送から診断までの流れ

t-PA治療は、発症からの時間が重要であるため、救急搬送された時点から迅速な診断が始まります。病院に到着すると、まずは脳梗塞の兆候を確認する〈FASTチェック〉を行い、続けてCTやMRIなどの画像検査で脳出血の有無を確認します。また、血液検査や問診も同時に行い、t-PA治療の適応条件を満たしているかを総合的に判断します。馬場記念病院では、救急部門と脳神経外科が連携し、迅速かつ適切な治療判断を行う体制を整えています。



投与とその後の管理

t-PA治療が適応されると、体重に応じて計算されたt-PAを、静脈から約60分かけて点滴で投与します。この薬は血栓を溶かす働きを持ち、脳への血流を回復させる効果が期待されます。投与後は、出血など状態の変化にすぐ対応できるよう、モニター管理のもとでしばらく経過を観察します。この初期対応の段階では、治療が正しく行われたか、安全に終了したかを確認することが大切です。



Column

ひと目でわかる！救急搬送から治療までの流れ

脳梗塞の治療は時間との勝負です。T-PA治療が始まるまでの流れを、順を追ってご紹介します。



(2025.3.14)

画像提供：PIXTA

